

平成21年2月

西原圭祐 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 井 藤 久 雄
同 小 川 敏 英

主論文

Minichromosome maintenance protein 7 in colorectal cancer: Implication of prognostic significance

(大腸癌におけるミニクロモソームメンテナンス7発現：予後予測の有用性)

(著者：西原圭祐、庄盛浩平、藤岡真治、徳安成郎、稲葉愛子、尾崎充彦、小川敏英、井藤久雄)

平成20年 International Journal of Oncology 33巻 245頁～251頁

審査結果の要旨

本研究は、外科的に切除された大腸癌におけるMinichromosome maintenance protein 7 (MCM7) 発現の臨床的意義を、Ki67発現と比較し、検討を加えたものである。その結果、MCM7陽性標識率は既存の臨床病理学的因子との関連は認めなかったが、MCM7高陽性標識率群は生存解析で有意に予後不良を示し、独立した予後不良因子であることを示した。また、潜在的増殖能を有す非増殖性細胞を意味するMCM7陽性Ki67陰性腫瘍細胞の増加は、リンパ節転移、遠隔転移、病期の進行と有意な関連があることが判明した。本論文の内容は、大腸癌における予後予測因子としてのMCM7の臨床病理学的意義、MCM7陽性Ki67陰性腫瘍細胞の臨床病理学的意義について解明したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。